

A I アシスタントを活用した教育内容の充実を目指して ～体験型の FD 研修会を受講した教員の認識に関する研究～

Enhancing Educational Content through the Use of AI Assistants: A Study on Teachers' Perceptions after Participating in Experiential Faculty Development Workshops

庄司 一也^{*1}, 石川 由美^{*2}, 國分 義之^{*3}

Kazuya SHOJI^{*1}, Yumi ISHIKAWA^{*2}, Yoshiyuki KOKUBUN^{*3}

^{*123} 帝京平成大学 健康医療スポーツ学部

^{*123}Teikyo Heisei University, Faculty of Health Care and Medical Sports

Email: k.shoji@thu.ac.jp

あらまし：帝京平成大学 FD 委員会 千葉キャンパス情報教育研究・推進部会主催の全教員を対象にした AI アシスタント (Microsoft Copilot) の使用方法に関する FD 研修会を、対面とライブ配信のハイブリッド型で開催した。研修後のアンケートでは、「参加者の満足度」が高く「AI の理解が深まった」と感じた教員が多かったほか、「実践的な内容が役立った」「研修全体を通して、今後に活かせるような内容があった」と回答したものも多かった。一方、事前説明不足やコンピュータリテラシーの差が課題として挙げられた。
キーワード：生成 AI Microsoft Copilot (AI アシスタント) FD 研修会 ワークショップ ビデオ配信

1. はじめに

第 2 著者、第 3 著者らが部会構成員を務める帝京平成大学 FD 委員会 千葉キャンパス情報教育研究・推進部会 (以下「同部会」とする) は、2025 年 1 月 10 日に全キャンパスの教員を対象とした同部会主催の FD 研修会を開催した。

今回は、すでに担当授業で生成 AI を活用⁽¹⁾している第 1 著者が研修会講師を務め、参加教員のコンピュータ (パソコン) 体験を伴うワークショップ型の研修会を開催した。これは近年爆発的な普及と進化を遂げる生成 AI の理解を深め、教育内容の充実を目的にコンピュータ操作を実際に行いながら生成 AI に少しでも慣れ、全学的な教育改善や DX 促進を意図したからである。そして FD 研修会後教員向けのアンケート調査によって成果や課題を分析し、あらためて同部会で検証した。

本稿では上記一連の取組について報告する。

2. FD 研修会の趣旨と内容

2.1 FD 研修会の趣旨

以前より本学 FD 委員会では、FD に関するさまざまなテーマを取り扱い、専門分野の講師を招聘しタイムリーで質の高い研修会を定期的で開催してきた。

今回は近年大きな話題になっている「生成 AI」について、同部会構成員による協議の下、教育内容の充実のほか、教育 DX 促進、さらには全学の AI・コンピュータリテラシー向上、業務プロセスの高度化など複数の意図を含んだ。

さらに生成 AI が情報システムであることから、コンピュータ操作を伴う体験型 (ワークショップ型) での開催が好ましく、研修会参加者の理解も一層促進されると同部会で考えた。そこでコンピュータ操

作を行いながら、千葉キャンパスはコンピュータ演習室での対面で、他キャンパス (池袋・中野) はリアルタイムのライブ配信での開催となった。

なお、当日の研修会に参加できない教員や後日確認等のために、研修会と同じ内容のビデオを制作し後日オンデマンド配信を行った。

2.2 FD 研修会の内容

研修会に先立ち、事前に「Microsoft Copilot 事前設定資料」を全教員に配布し、当日の研修会で即生成 AI を使用できるよう事前設定方法を案内した。

1 月 10 日 当日は、本学で全教員がエンタープライズ データ保護の下で使用できる「Microsoft Copilot」を使用アプリケーションソフトとして、「Microsoft Copilot (AI アシスタント) を活用した教育内容の充実～体験を通して AI の理解を深める～」という研修会テーマで実施した。

研修会が 1 時間という関係上、解説は基本部分に絞り、コンピュータ・システム上の注意点のほか、Microsoft Copilot の代表的な機能である「文章生成」「画像生成」「WEB ページ要約」「単語帳として活用」「PDF ファイル (大容量文書) 要約」「動画の要約 (議事録)」を扱った。

上述のとおり、講師登壇地である千葉キャンパスはコンピュータ演習室を利用した対面開催、それ以外の池袋・中野キャンパスは Microsoft Teams を活用したライブ配信での開催となった。解説時は第 1 著者が講師として上記内容を説明し、第 2 著者が教室および Microsoft Teams 画面の質問等をチェックしながら協働して個別対応に当たった。なお千葉キャンパスの教室会場においては、適宜情報分野に強い教員の協力も得ながら進行することができた。

3. アンケート調査の集計結果と考察

前述のとおり研修会後にアンケート調査を行った。研修会当日の対面参加者数は 35 名（千葉キャンパス）、リアルタイム配信参加者は 37 名（池袋・中野キャンパス）であった⁽²⁾。そしてオンデマンド配信も含め、最終的な研修参加者数は 118 名で、そのうちアンケート結果を研究に用いることに「同意する」と回答した者は 113 名、「同意しない」者は 6 名であった。以下は、研究に同意が得られた 116 名の調査結果である。

まず『研修会の参加方法』は、「後日オンデマンド配信を受講」した者が 72.6%と最も多かった。次いで、「対面」による受講者が 16.8%、「当日ライブ配信を研究室で受講」した者が 10.6%であった。なお『キャンパス別の参加方法』は表 1 のとおりである（『視聴状況』についても概ね問題はなかった）。

次に『研修全体の満足度』は、「とても満足」が 60.2%と最も多く、次いで「満足」が 38.9%、「どちらでもない」が 0.9%であった。「不満」及び「とても不満」と回答した者はいなかった。「とても満足」と「満足」を合計すると 99.1%で、参加者のほとんどが満足した結果となっている。

さらに『理解のしやすさ』『説明の分かりやすさ』『進行速度』についても他設問同様、好意的・肯定的な回答が得られた。

そして特に着目すべき点として『Microsoft Copilot を活用した実践的な内容が役に立ったか』という問いについては、図 1 のとおり「とても役立つ」が 54.0%と最も多く、次いで「役立つ」が 38.9%、「普通」が 7.1%であった。「あまり役立たなかった」及び「役立たなかった」と回答した者はいなかった。「とても役立つ」と「役立つ」を合計すると 92.9%であり、ほとんどの参加者が役に立ったと感じていることが分かる。加えて、『研修全体を通して、今後に活かせるような内容があったかどうか』については、「あった」が 98.2%、「無かった」が 0.9%、「無回答」が 0.9%であった。

それ以外に『体験を通して AI の理解が深まったか』については、「深まった」54.9%、「とても深まった」33.6%と約 90%が肯定的な回答をしている。

最後に研修会に対する意見・感想の自由記述（有効回答者 33 名）をテキストマイニングによって図 2 のとおり共起ネットワークで可視化した。ここからも「今回貴重な機会になったこと」「有意義な研修会であったこと」「今後授業や業務で活用していくこと」「大変勉強になったこと」など、肯定的・前向きな記述が多数見られた。

表 1 キャンパス別の参加方法 (n=116)

	池袋	千葉	中野
対面		38.8%	
当日ライブ配信	8.7%	0.0%	24.4%
後日オンデマンド配信	91.3%	61.2%	75.6%

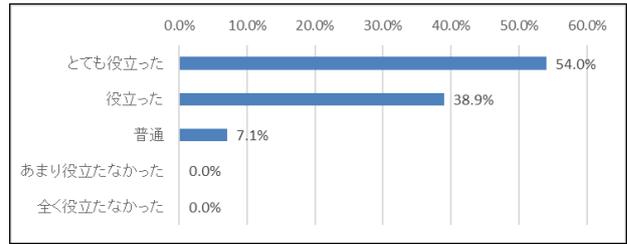


図 1 実践的な内容が役立ったか (n=116)

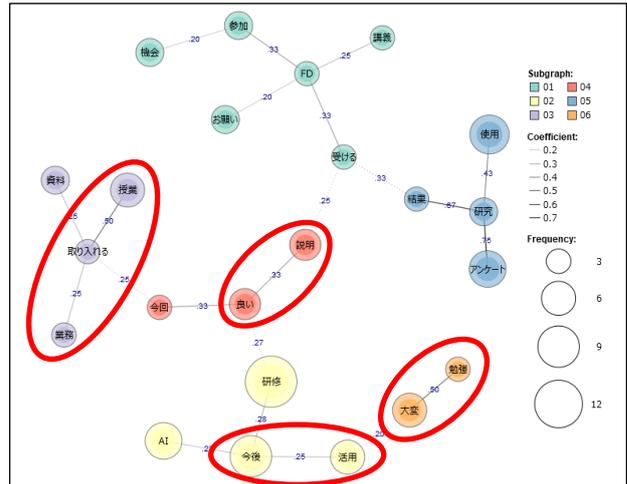


図 2 自由記述の共起ネットワーク (n=33)

4. おわりに

以上のとおり FD 委員会 千葉キャンパス情報教育研究・推進部会主催の下、同部会の協働により、生成 AI に関するコンピュータの体験を伴うハイブリッド型の FD 研修会を開催し、環境や内容、さらには理解度など全体的に高評価ものとなった。

一方、事前の説明不足で当日の研修会開始時に生成 AI の設定が未完了の者が存在したほか、コンピュータリテラシーの差によって対面・リアルタイムライブ配信ともに進行に一部支障が出るケースもあった。

今後これらの課題を同部会内で再検討し、FD 研修会を改善・継続していきたい。

5. 倫理的配慮および利益相反行為

本研究においては、帝京平成大学の倫理委員会の倫理審査を経て、研究倫理に抵触する内容がないことが認められた（承認番号 2024-127）。

併せて利益相反申告の審査を経ており、利益相反に抵触する内容がないことが認められた（承認番号 2024-0226）。

6. 参考文献

- 庄司一也: “理解向上を目的とした生成 AI 活用教育と生成 AI に対する意見の分析”, 関西ベンチャー学会 第 33 回九州研究部会 発表資料, pp.1-20 (2024)
- 石川由美: “情報教育研究・推進部会 1.FD 研修会の実施”, 帝京平成大学 FD NEWSLETTER, Vol.18, No.1, p.34 (2025)